**特集1－新製品の評価（New）**

記事執筆：田辺敬吾

2019年10月1日

# ■「フォトデジット」の特徴

デジタルカメラが普及する中、撮った写真の一部を切り抜き、別の背景と重ねて非現実的な写真を作り上げ、年賀状に貼りつけるといった工夫をしたことがある人も多いはず。画像加工ソフトで重要なのは、このようなコラージュ（collage）が快適にできるかどうかだ。そこで、画像を切り抜くときに使う「選択」機能と、画像を合成するときに必要な「レイヤー」機能に注目してみよう。

フォトデジットにある選択方式は①通常選択、②自動選択、③色域選択、④文字領域選択の全部で4種類ある。①は四角形や楕円などの固定した形状による選択方式で、②はマウスドラッグの軌跡をそのまま選択領域にする方式である。③は、写真内の同一色または近似色を選択する方式で、低価格ソフトではあまり見ることができない機能だ。この機能を初期バージョンから採用されているのは評価できる（フォトマーカーには搭載されておらず、コラージュソフトでは最新バージョンでやっと搭載された）。ただし、クリックして画像の輪郭を自動認識しながら選択する方式が搭載されていないのは残念だ。④は入力した文字の輪郭をそのまま選択領域にする方式で、主にタイトルロゴをデザインする場合に役立つ。なお、いずれの選択領域も、境界をぼかしたり、選択領域を保存したり、保存領域を別の領域に乗算して範囲を広げたり（狭めたり）ができる。

つぎにレイヤー機能だが、この機能は専用のプロパティから操作できる。追加、削除、移動、結合といった単純な機能はプロパティ内にあるボタンをクリックするだけで実現できる。なお、前述で説明した「選択」による領域をレイヤーに追加することができる。インターフェースは、フォトショットを意識した、わかりやすいものとなっており、レイヤーを使ったことのない人でも簡単に操作できる。

# ■その他のバンドルソフト

フォトデジット以外に2つのソフトが添付されているが、これら2つとも、DTP編集に役立つソフトとなっている。

まず、画面キャプチャソフト「キャプチャ」は、その名の通り、画面をキャプチャするためのソフトだ。全画面、クライアントエリアほか、5種類のエリアをショートカットキーからキャプチャできる。また、保存先とファイル形式を指定すれば、名前を付けて自動的にハードディスク内に保存してくれる。これで、保存作業の時間と手間が大幅に削減できる。

キャプチャした画像のファイル形式を一括して変更したい場合は、「イメージコンバート」が役に立つ。これは、複数ファイル形式（画像ファイル）で保存された画像を１つのファイル形式に一括で変更するというものだ。たとえば、間違えてキャプチャをBMP形式で保存してしまっても、あとでEPS形式に一括変換できる。これはインターネット上で収集した画像のファイル形式統一にも使える。希望としては、カラー画像をモノクロ画像に一括変換するといった機能も搭載してほしかった。また、インターフェースももう少し簡潔化してもよいのではないか。これは、次期バージョンに期待しよう。なお、イージーDTP機能を搭載した同社製品のドローを利用している人にとっては、イメージコンバートは併用ソフトとして十分活用できるだろう。

（記者：田辺敬吾）